

令和6年度南部地区道徳教育研究協議会の概要

令和6年度は、第1日は参集型で行い、第2日はオンライン会議を行いました。概要と、指導者による指導内容の概要を掲載させていただきます。

【第1日 研究協議題】

『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえ、『考え、議論する道徳』の授業を充実させるために、どのような工夫改善を図ることができるか。また、学習活動に着目した評価を行うに当たって、どのような工夫ができるか。

○ 日 程・会 場

10月11日（金）志木市立宗岡第三小学校・志木市立宗岡第二中学校

○ 部 会

小学校…「自我関与」「問題解決A」「体験的A」の3部会
中学校…「問題解決B」「体験的B」の2部会

- ・【自我関与部会】
「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」を学習活動の中心に据えた授業。
- ・【問題解決部会A・B 小学校：A、中学校：B】
「問題解決的な学習」を学習活動の中心に据えた授業。
- ・【体験的部会A・B 小学校：A、中学校：B】
「道徳的行為に関する体験的な学習」を学習の中心に据えた授業。

○ 授業の概要

部会名	クラス	内容項目	教材名・出典
自我関与	3年1組	D 自然愛護	流れて行く先 「未来に生きる」埼玉県教育委員会
問題解決A	6年2組	D 友情、信頼	ロレンゾの友達 「小学道徳生きる力 6」日本文教出版
体験的A	1年2組	B 礼儀	どちらがいいかな 「小学道徳生きる力 1」日本文教出版
問題解決B	2年3組	C 遵法精神、公德心	美しい鳥取砂丘 「中学道徳生きる力 2」日本文教出版
体験的B	1年4組	A 自主、自律、自由と責任	私らしさって 「中学道徳生きる力 1」日本文教出版

- ・「自我関与部会」の授業では、自我関与する登場人物を絞り、登場人物になりきって、登場人物の判断や心情を、児童生徒が自分との関わりで共感的に考えていた。
- ・「体験的部会」の授業では、役割演技を取り入れ、実感したことから、道徳的行為のよさや難しさを、児童生徒が多面的・多角的に考えていた。
- ・「問題解決部会」の授業では、問題解決したい内容を明確にし、児童生徒同士の対話を充実させることで、自己の生き方について考えを深めていた。

《指導講評のポイント（抜粋）》

【道徳科の目標について】

- ・目標…①道徳的諸価値の理解、②自己を見つめる、③多面的・多角的に考える、
④自己の生き方について考える、⑤判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
(小学校学習指導要領解説P16、中学校学習指導要領解説P13)
- ・児童の発達の段階を理解し、道徳性を養う。
(小学校学習指導要領解説P26、中学校学習指導要領解説P24に一覧表)

【道徳的諸価値の理解について】

- ・教材吟味において、教師自身が道徳的価値のよさやすばらしさを理解し（価値理解）、頭では理解していてもなかなか実行できない人間の弱さを理解し（人間理解）、感じ方や考え方は人によって違う多様さを理解する（他者理解）ことを意識して授業づくりを行う。
- ・資料の範読の前に、事前に主人公がどのような道徳的な問題に直面するのか、児童生徒が何を考えながら読むのか伝えることで、学びの見通しをもてるようにする。

【自己を見つめることについて】

- ・事前アンケートを導入時に活用することで、これまでの経験と照らし合わせ、道徳的価値について考えられるようにする。
- ・じっくりと自分の考えをもつ時間を確保することで、自分事として道徳的価値について考えられるようにする。
- ・対話を通して価値が高まった状態で今までの自分を振り返ることで、より深く自己について考えられるようにする。

【多面的・多角的に考えることについて】

- ・心情メーターを活用することで、白黒つかない自分の立ち位置に気付くことができるようにし、児童生徒の価値観がそれぞれ異なることを視覚的に気付かせるようにする。
- ・児童生徒同士のグループ内での対話において、自分と異なる考えを意識することで、多様な価値観に向き合うことができるようにする。
- ・児童生徒同士のグループ内での対話において、考えをまとめるのではなく、対話では出ていない考えを見付けたり、少数意見を深掘りしたりするように働きかけることで、児童生徒が、多様な価値観に気付くようにする。
- ・学級全体での対話において、価値観を揺さぶる発問を行うことで、児童生徒が、多様な価値観があるということに気付くようにする。
- ・役割演技をしたり見たりする学習活動を設定することで、自由に登場人物の気持ちを話したり、言葉では表せないものを感じたりして、多様な考えが生まれるようにし、実感を伴った理解をするようにする。
- ・多様な価値観に触れる中での解決策を考える学習活動を設定することで、価値理解のみならず、人間理解や他者理解についても深めるようにする。

【自己の生き方について考えることについて】

- ・振り返りににおいて、自分の生き方を振り返ることを毎回の授業で行うことで、自分の心の成長に気付くようにする。
- ・子供の言葉を教師が要約するのではなく、子供の言葉そのものを大事に板書することで、振り返りに活用できる板書となるようにする。
- ・振り返りににおいて、本時の導入時の問題意識を再確認することで、道徳的価値と関わらせて自分の生き方について考えることができるようにする。

【判断力、心情、実践意欲と態度を育てることについて】

- ・自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、体験的な学習等、多様な指導方法を工夫することで、実感を伴う理解を促し、児童生徒が学んだことを自分の生活と結びつけて考えるようにする。
- ・判断力、心情、実践意欲と態度の違いを意識し、授業づくりを行うことで、目指す児童生徒像を明確にした上で授業づくりを進める。

- ・どのような学習活動を行えば、判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにつながるかを考えて授業を行うことで、道徳性を育てていく。

○ 日 程

11月13日（水） ウェブ会議

○ 内 容

【研究協議題:第2日】

『特別の教科 道徳』を含む新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、教育活動全体を通じた意図的、計画的な指導、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善すればよいか。また、道徳教育を通じて「規律ある態度」を身に付けるためには、どのような工夫ができるか。

- ・道徳教育推進モデル校 実践発表（北本市立西小学校・新座市立第二中学校）
- ・講義「道徳教育推進教師の役割と道徳教育推進体制の確立」
講師 県立総合教育センター 土井 鉄平 指導主事
- ・グループ協議（小学校部会 15 グループ、中学校部会 10 グループ）

《講義の概要》

【教育活動全体で行う道徳教育】

- ・各教科等の授業で、学級経営で、学校行事で、給食、清掃、朝・帰りの会などで、規律ある態度・生活目標など、あらゆる場面で子供たちの心を育てる。

【重点目標の明確化】

- ・どのような子供を育てたいのか、目標に向かってどのような内容を重点的に指導するのかを明らかにする。
- ・意図的な指導であることが大切である。

【道徳科におけるICTの活用】

- ・（例）①導入で問題意識をもたせるための活用（アンケート結果など）
②話し合いの場面での活用（思考ツール、ポジショニングなど）
③自己を見つめる場面での活用（ノートの写真を撮るなど）
- ・ICTの活用は手段であり目的ではない。子供たちが道徳性を育むために、効果的な場面で使用することが重要である。

【道徳教育推進教師の役割】

- ① 指導計画の作成（全体計画、別業、年間指導計画）
- ② 全教育活動における道徳教育の推進、充実（学校行事、体験活動、各教科等とのつながり）
- ③ 道徳科の充実と指導体制に関すること（研修計画、授業の進め方モデル）
- ④ 道徳用教材の整備、充実、活用（場面絵、ワークシート等の整理、ねらいと発問を残す）
- ⑤ 道徳教育の情報提供や情報交換（道徳通信、サイトの紹介）
- ⑥ 家庭・地域社会との連携（授業公開、ゲストティーチャー、学校HP）
- ⑦ 道徳教育の研修の充実（理論研修、校内授業研究、文部科学省や県立総合教育センターの資料の活用）
- ⑧ 道徳教育における評価（教師の改善・充実、児童生徒が自らの成長を実感）

【道徳教育推進教師がもちたい機能的役割】

- ① プロモーター（推進者）
- ② コーディネーター（調整役）
- ③ アドバイザー（助言者）